



No.426

令和元年12月20日

編集発行 富山県教育委員会

発行人 教育企画課長

教委だより

特集 子どもとの面談テクニック・子どもへの話しかけ方テクニック (p2)

いきいき茨城ゆめ国体2019 (第74回国民体育大会)

9月28日(土)から10月8日(火)まで、いきいき茨城ゆめ国体2019(第74回国民体育大会)が茨城県一円において開催されました。

今大会では、自転車競技少年男子スクラッチの中村圭吾選手(氷見高校)が準優勝、自転車競技少年男子ケイリンの林佳宗依選手(氷見高校)、ライフル射撃競技少年女子エアライフル立射の山本優里選手(南砺福光高校)が3位に入るなど、今後一層の活躍が期待されます。

このほか、自転車競技成年男子ケイリンとバドミントン競技成年男子の優勝をはじめ、58種目(少年種別23種目)で入賞を果たしました。



競技別男女総合成績第3位の自転車競技

Contents (主な内容)

- 特集 子どもとの面談テクニック
・子どもへの話しかけ方テクニック …2p
- 第19回全国中学校総合文化祭富山大会
兼 第24回富山県中学校文化祭 …3p
- 第31回 富山県高等学校文化祭 …4p
- キャリア教育指導者養成研修(全2回) …4p
- 令和元年度 教育功労者等表彰式 …4p
- 「高志の国文学」情景作品コンクール及び
「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクールの表彰式開催 …5p
- 子どもとやま県議会 …5p
- 第37回 富山県駅伝競走大会について …6p
- 学校給食とやまの日の取組み …6p
- 富山マラソン2019 …7p
- 平成30年度 児童生徒の問題行動
・不登校等に関する調査 …7p
- 夢の卵 育成事業 …8p
- わくわく古代チャレンジ2019 …9p
- インフォメーション …9p
- 総合教育センターNOW …10~11p
- 学校レポート 明るい学校 楽しい学校 美しい学校
-「かたる」「まもる」「つなぐ」の活動を通して-
立山町立雄山中学校 …12p
- リレーエッセイ「趣味と実益」
総合教育センター所長 森田 喜邦 …12p

特集

子どもとの面談テクニック・子どもへの話しかけ方テクニック

~その2~

~「いじめていません。ふざけ合っただけです。」と言われたことはないですか?~

いじめの被害者、加害者と適切な面談を行うため、「面談テクニック・話しかけ方テクニック」を3回にわたり連載します。今回は加害者編です。気になる児童生徒の面談にご活用ください。(監修 臨床心理士 山藤 奈穂子先生)

<「いじめ」をどう認めさせるか。「いじめ」はいけないこととどうやって理解させるのか.>

加害者の感情と行為を分けて考える

(むかつく、嫌だな) (無視、悪口、嫌がらせ)

- ①感情は否定せずに共感し、いじめ行為のみを指導する。
※感情と行為をセットにして指導すると、心を閉ざしたり、反発したりする傾向がある。
- ②加害者が被害者に対して再び嫌な感情を抱いてしまった場合、どうすればよいかを教える。



重要

ポイント①

- ・私(先生)は、あなた(A)の味方である。あなたのことを認めている(承認している)ことを感じさせる。
- ・この「空気づくり」が大切である。(加害者にとって最も話しやすい教員がアプローチする)
- ・雑談などでAが興味のある話題から、アプローチしてもよい。



①感情の共感

〔設定〕 A : 加害者 B : 被害者

①具体的な声かけ

- ・「この頃、△△△を頑張っているね」
- ・「最近、◇◇◇を頑張ってくれて、ありがとう」
- ・「最近元気がないように見えるよ」
- ・「何となく嫌だなと思っていることはないかな」
- ・「何かもやもや、イライラすることはないかな」など

Bをいじめるきっかけとなった感情

【重要ポイント】

Aは、何らかの「被害感」を感じていることを前提とする。
Aも「困り感」からスタートして、いじめ行為にいたっている。

Aの反応: 実は、むかつくことがあって…

あいつ(B)が、俺に●●●をしたんだ!

ポイント②

- ・Aの「嫌だったな」という気持ちに丁寧に寄り添う。
- ・Aの「嫌だった」気持ちを共有(共感)することが、反省しやすくなり、この後の指導につながる。

②具体的な声かけ

- ・「あなたも、つらかったんだね」
- ・「我慢していたんだね」
- ・「気付けなくてごめんね」など

ポイント③

- ・Bの立場に立って考えさせる(なかなか相手の気持ちが理解できない子どもには、教師がイメージ作りを支援する)。
- ・Aが自分の感情だけで行動していることに気付かせる。
- ・Aの言い逃れやいじめを正当化しようとする態度に決して同調せず、いじめ行為に関しては一歩も引かない姿勢を見せる。

③具体的な声かけ

- ・Bは、Aのそういう気持ちを知っているのかな。
- ・AはBに、そういう気持ちを伝えたのかな。 など

Aの反応: 言っていない。言わなくてもわかるやる!

ポイント④

- ・Aが納得することが重要。(ポイント③に時間をかける)
※納得したら、「あっ、○○○したこと、やり過ぎだったな」という気付きが起こる。

④具体的な声かけ

- ・そのこと、(Bに)言わないとわからないよ!
- ・Aだって、急に理由が分からないまま、○○○されたら、意味が分からないよね。 など

Aの反応: まあ、そうだな。ちょっとやり過ぎたかな。

ポイント⑤…アサーション(自己主張)スキルをつける

- ・相手に「嫌なことだから、やめてほしい」と自分の口で伝えることの大切さを教える。それができなさそうなら、教師が仲介人となり嫌な気持ちであることを伝える。

⑤具体的な声かけ

- ・もし、再びBが●●●してきたら、今度はどうする?
- ・①それは嫌だから、やめてほしいと自分の口で伝える、②その場から離れ、少し距離をとる行動をとる。③教師に報告し、教師が介入してBへやめてほしいと言ってもらおう。などの選択肢を示し、Aにどう対応するかを自分で決めさせる。

ポイント⑥…リラクゼーションスキルをつける

- ・嫌な気持ちになった時の対処方法をアドバイスする。

⑥具体的な声かけ

- ・もし、むかつくようなことがあったら、どうする?
- ・①家族や大人に自分の気持ちを聞いてもらう。②好きなことに熱中する。③拳を5秒間握る→パッと手のひらを解放する。などのストレス解消スキルを教える。

③再発防止の教育

小・中学生の7~8割が被害と加害の経験を持っている(国立教育政策研究所調査)ことから、被害者の苦しみは理解できると信じ、自分がやったことの重大さに気付かせながら「いじめは許されない行為」だと十分に認識させる。

第19回全国中学校総合文化祭富山大会

兼 第24回富山県中学校文化祭

8月22日、23日「咲かせんまいけ! 富山に日本に 未来へ輝く文化の『花』」のスローガンのもと、第19回全国中学校総合文化祭富山大会が行われました。オープニングセレモニーでは、四季折々の富山の魅力と文化をテーマに、大伴家持が登場する劇で幕を開けました。四季の魅力を家持の歌とともに紹介し、「むぎや」の合唱や八尾中学校郷土芸能部による「越中おわら節」などを披露して、会場を盛り上げました。

全国中学校総合文化祭は富山県では初開催となり、全国から約8,100名が集い、県民会館と教育文化会館の2会場で、音楽や演劇、美術等11部門で日頃の活動の成果を披露しました。会場には全国から中学生や保護者が多数来場し、みずみずしい感性が光る作品やステージ発表に見入っていました。



オープニングセレモニー合唱団



オープニングセレモニーでは、現代の富山を覗き見るという物語で、富山市立新庄中学校演劇部の生徒が大伴家持に扮し、登場しました。



展示発表では、全国の中学生から、力作が数多く出品されました。



富山市立速星中学校吹奏楽部の「速中サウンド」でステージ発表を締めくくりました。

第31回 富山県高等学校文化祭

第31回富山県高等学校文化祭が10月25日～27日を中心会期として、富山県民会館をメイン会場に開催されました。26日のステージIでは、初めて演劇専門部の発表が行われ、高校生らしい伸びやかな演技が観客を魅了していました。

その他、日々文化活動に励む高校生の作品展示やステージ発表は、どれもみずみずしい感性と創造性にあふれていました。



ステージI 富山中部高校演劇部「星降る夜の彼方には」

キャリア教育指導者養成研修（全2回）ー今年も富山県で開催！ー

今年度も独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）と富山県の主催によるキャリア教育指導者養成研修が本県で開催されました。この研修は、国の地方創生にかかる取組みである「政府関係機関の地方移転」の一環として平成28年度から実施されているものです。

第1回は6月、第2回は8月に高志会館で行われました。各回とも教育委員会の指導主事や小中高校の教員ら約100名が全国から参加し、講義に加えグループワークやポスターセッションなど豊富な演習を通して研修を深めました。受講者からは「キャリア教育を推進するためのプログラム開発に必要な知識や方法を学べるなど大変有意義な研修であった。」などの声が聞かれました。



講義の様子



受講者による熱心な協議

令和元年度 教育功労者等表彰式

11月1日（金）、令和元年度富山県教育委員会教育功労者等表彰式が県庁で行われました。

これは、学校教育や社会教育、文化やスポーツの分野で優れた業績をあげた方を表彰するもので、今年度は、52個人と11団体が選ばれました。

学校関係では、優良教職員として25名、優良教職員組織として1団体、優良学校として2校、優良児童生徒として3名、優良体育・スポーツ活動推進者として5名・1団体が表彰されました。

伍嶋教育長は式辞で、「今日、教育県富山として全国に誇りうる教育を展開しているのも、皆様方の比類ない使命感と不断の努力の積み重ねに負うところが大きい」と功績をたたえられました。表彰された皆様の、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



「高志の国文学」情景作品コンクール及び「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクールの表彰式開催

11月6日(水)、「高志の国文学」情景作品コンクールと「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクールの表彰式が高志の国文学館で行われました。2つのコンクールの入賞者67名を代表して、知事賞8名の児童生徒に石井知事から賞状が授与されました。

石井知事からは「若い世代の皆さんに、夢や希望や情熱をもって、グローバル化の時代にふるさとに心の根っこを置きながら、全国や世界で活躍して下さるとうれしいです。皆さんの未来には無限の可能性があります。それぞれの花を立派に咲かせていただき、そのことがふるさと富山の発展につながっていけばうれしいと思います。」と激励を受けました。その後、「高志の国文学」情景作品コンクール文芸部門で知事賞を受賞した高岡高校2年



表彰を受ける村中恵李花さん(富山市立堀川中学校)



感謝の言葉を述べる細川 依純さん(高岡高校)

細川依純さんが2つのコンクールの受賞者を代表し、「私たちはふるさと富山に関する様々な作品から感じたことを、文芸・美術・写真の得意な分野で表現しました。私は司馬遼太郎氏のエッセイ『街道をゆく』の中で描かれた五箇山合掌づくりを題材にした短歌を出品しました。司馬氏の風土の優しいとらえ方に感銘を受け、浮かぶ着想のままに短歌を詠みました。今回このような栄誉ある賞をいただいたことを励みに、今後はさらに精進していきたいと思います。」と感謝の言葉を述べました。

今年度、情景作品コンクールには、文芸や美術、写真部門に計3,103点、作文コンクールには1,895点の応募がありました。



子どもとやま県議会



8月21日、県内27小学校の5・6年生42名の子ども議員が県議会議事堂に集い、令和元年度「子どもとやま県議会」が行われました。

今年度は、「活力・未来・安心・心」の4委員会から、富山県のすばらしさを学び、味わい、受け継いで、元気で生き生きとした県を目指す提案や、もっと美しく住みやすい県にしたい提案、もっと安心して暮らせる住みよい県にしたい提案、多世代交流を通して、一人一人が命の温もりを感じ、笑顔で元気で生きがいをもち続けることができる県を目指す提案が出され、熱心な質疑応答の後、いずれも可決されました。

最後に、石井知事から「これからも希望をもって大いに頑張って、充実した人生を送ってほしい」との激励の言葉をいただきました。



子ども議員の発表(活力委員会)

第37回 富山県駅伝競走大会について



県内12郡市代表の選手が健脚を競う「第37回富山県駅伝競走大会」が秋晴れの越中路で開催され、富山～高岡間 往復42.5km、18区間で熱戦が繰り広げられました。富山市は4区でトップに躍り出るとそのままトップを守り続け、大会11連覇を果たしました。チーム新記録となる走りを見せた中新川郡が2年連続2位に、3位には昨年5位から躍進した魚津市が入りました。



勢いよくスタートする選手たち 読売新聞北陸支社提供

第37回県駅伝競走大会 結果

1位	富山市	2時間11分36秒
2位	中新川郡	2時間16分05秒
3位	魚津市	2時間18分48秒
4位	高岡市	2時間19分21秒
5位	砺波市	2時間20分14秒
6位	射水市	2時間21分05秒

チーム新記録

中新川郡	2時間16分05秒
(これまでの記録：2時間16分47秒)	

小学5、6年生の男女10人で構成する12郡市が順位を競う富山県小学生駅伝競走大会では、沿道に詰めかけた大勢の方々の声援を受けながら、タスキをつなぎました。



小学生たちのスタート 読売新聞北陸支社提供

県小学生駅伝競走大会 結果

1位	富山市	29分32秒
2位	高岡市	29分44秒
3位	砺波市	29分50秒
4位	射水市	30分30秒
5位	魚津市	30分53秒
6位	南砺市	31分00秒

学校給食とやまの日の取組み

県教育委員会では、「富山県食育推進月間」に合わせて11月中の一日または数日を「学校給食とやまの日」とし、県産食材を積極的に使用した学校給食を実施することとしています。県内の各小中学校では、市町村、学校給食関係者の協力を得ながら、地域の食材をふんだんに取り入れた、特色ある献立が提供されています。

射水市でも、11月22日（金）の学校給食とやまの日に、「呉西（ゴーセイ）な日」の献立が提供されました。これは、「とやま呉西圏域連携事業 呉西圏域ブランド育成事業」として昨年からはまったもので、呉西6市の統一献立になっています。その名の通り、献立には、ハトムギ、キャベツ、たまねぎ、枝豆、しそ、豚肉、りんご、なし等、呉西6市の地場産物がたくさん使われ、児童生徒は、「ハトムギ入りしそご飯、ゴーセイなメンチカツ、枝豆サラダ、氷見うどん汁、6市ミックスゼリー」といった特別感あふれるゴーセイ（豪勢）な給食をおいしく味わいました。

射水市立太閤山小学校のランチルームでは、給食委員会による6市の食材紹介が行われ、児童が地場産物や地産地消のよさについて理解を深める貴重な機会となりました。



富山マラソン2019



北陸新幹線開業を契機としてスタートした「富山マラソン」が10月27日に開催されました。今年で節目の5回目となる大会には、国内外から1万4千人を超えるランナーが出走しました。

フルマラソンの部では、9時に高岡市役所前をスタートし、高岡大仏前や山町筋を通る高岡エリアを抜け、新湊大橋を渡る射水エリアを通り、富山エリアの富岩運河環水公園周辺にあるゴールを目指しました。このコースはランナーにとって、雄大な自然や伝統、文化を満喫してもらえるコース設定となっています。

また、沿道には伝統芸能を交えた応援イベント、名水、ます寿司および富山米“富富富”を使った白えび天むすなどの給水・給食を配置するほか、フィニッシュ会場では本年新企画の県内3つのプロスポーツチームのチアダンスチームを招いてステージイベントを盛り上げました。当日は、あいにくの雨模様となりましたが、多くの県民の皆さんの応援やボランティアスタッフの献身的な取組みにより、富山県ならではの心温まる大会として、多くのランナーから高い評価を受けております。



平成30年度 児童生徒の問題行動・不登校等に関する調査

— いじめ・不登校・暴力行為 —

文部科学省の「平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果(国公私立学校分)が、10月に公表されました。<文部科学省の公表データのみ記載>

【いじめの認知件数】

() は、本県の1,000人当たりの認知件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	特別支援学校	合 計
H30	794	455	124	27	1,400 (12.8 国40.9)
H29	470	366	85	18	939 (8.5 国30.9)

いじめの認知件数は、29年度と比べ、全校種で増加しました。1,000人当たりの認知件数は、全国平均を下回っています。

【不登校児童生徒数】

() は、本県の1,000人当たりの不登校児童生徒数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	合 計
H30	334 (6.6 国7.0)	801 (28.7 国36.5)	457 (16.3 国16.3)	1,592
H29	279 (5.4 国5.4)	635 (22.3 国32.5)	500 (17.6 国15.1)	1,414

不登校児童生徒数は、29年度と比べ、小学校・中学校で増加し、高等学校で減少しました。1,000人当たりの人数は、小学校・中学校で全国平均を下回り、高等学校は全国平均と同じでした。

【暴力行為の発生件数】

() は、本県の1,000人当たりの発生件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	合 計
H30	404 (7.9 国5.7)	298 (10.7 国8.9)	66 (2.3 国2.1)	768 (7.1 国5.5)
H29	147 (2.8 国4.4)	186 (6.5 国8.5)	34 (1.2 国1.8)	367 (3.3 国4.8)

暴力行為の発生件数は、29年度と比べ、全校種で増加しました。1,000人当たりの発生件数は、全校種で全国平均を上回っています。

日ごろから規範意識の醸成や自己肯定感の向上、教育相談体制の充実等の取組みにより、問題行動や不登校の未然防止を図るとともに、児童生徒をきめ細かく見守り、家庭や専門家、関係機関と連携して早期発見・早期対応に努めることが大切です。



夢の卵 育成事業



(富山県ひとづくり財団)

この事業では、「将来こんな職業に就きたい」という「夢の卵（将来の夢）」を作文にしてもらい、優秀作品を表彰して、その道の第一人者のもとへ派遣しています。

16回目となる今年度は、小学生の部と中学生の部をあわせて2,234作品の応募があり、その中から選ばれた4名の子どもたちに夏休み期間中、夢に一歩近づいてもらうために、短期入門してもらいました。

小学生の部 2名 (応募数1,214作品)



富山の自然を活かせる建築家になりたい
河原 詩緒里 さん (上市町立宮川小学校6年)

建築や公園でふるさと富山に対する「好き」という思いを表現し伝えていきたいという気持ちを持って、富山大学芸術文化学部に入門し、建築物の見学や、八尾の街並みを飾る影絵のデザインを体験しました。



芸術文化学部の横山天心准教授と



宇宙のあらゆる謎を解き明かす研究者になりたい
田村 大輝 さん (富山市立大久保小学校5年)

星空観察やKAGRAの見学など多くの体験を通し、宇宙の研究者になりたいという気持ちを持って、富山市科学博物館に入門し、天体やスペクトル、隕石について学び、プラネタリウム操作体験をしました。



富山市科学博物館の林忠史学芸課長代理と

中学生の部 2名 (応募数1,020作品)



大相撲の立行司になりたい
村田 宏樹 さん (射水市立射北中学校2年)

憧れを出発点に、行司が好きであり、なりたいという強い気持ちを持って、式守伊之助に入門して行司の仕事についてお聞きしました。また高砂部屋にも入門し、相撲部屋での行司の仕事を経験しました。



立行司第41代式守伊之助と



安全に環境を再構成できる解体業者になりたい
今井 英介 さん (南砺市立井口中学校2年)

解体に興味を持ち、その環境影響や廃材の再利用を学ぶ気持ちを持って佐藤工業に入門し、横浜市の「びあアリーナMM」新築工事現場を見学して廃材の仕分け等を体験しました。また高俊興業では混合廃棄物のリサイクルを見学しました。



高俊興業の中央操作室にて

わくわく古代チャレンジ2019

富山県埋蔵文化財センター

埋蔵文化財センターでは、小学4～6年生を対象にさまざまな考古体験をとおして古代に生きた人々のくらしや知恵にふれる「わくわく古代チャレンジ2019」を夏休みに開催しました。

このうち親子で考古体験を行う「ふるさと考古学教室」では、「刀鍛冶を体験しよう」「アジロ編みを体験しよう」「ガラスの装飾品を作ろう」などを行い、310組の親子が楽しみながら、古代の技に挑戦しました。「こども考古学クラブ」には、より歴史について学習したいという意欲をもった6年生が集まりました。3日間、午前は富山県の遺跡や出土品と関連させたクイズを解きながら学習、午後は「土器の復元」「土器の拓本」「土器の実測」の体験を行いました。参加者からは「昔のものづくりの大変さが体験を通して分かる良い機会になった」「歴史がもっと好きになった」などの感想をいただき、埋蔵文化財や地域の歴史への関心が深まりました。



アジロ編みを体験しよう



土器の復元をしよう

インフォメーション

開催場所 内容 対象 募集人数 応募要領
募集締切 参加料 ホームページ 問い合わせ

自遊塾 富山県生涯学習カレッジ 県民教授募集
令和2年度県民カレッジ自遊塾 県民教授募集

期日 令和元年12月中旬～令和2年1月15日

富山県カレッジ本部 TEL076-441-8401

- 自主的に企画・発表したい
 - 学んだことを生かして教えた
 - 学びを深め、交流したい
- あなたも、県民カレッジ自遊塾の県民教授(ボランティア講師)になりませんか。

http://www4.tkc.pref.toyama.jp/toyama/

自遊塾
県民教授募集

参加者募集 富山県映像センター 富山県視聴覚教育研修会

期日 令和2年2月13日(木)

富山県教育文化会館 5階

- ①映像教材等の紹介と活用例
 - ②講演「メディアと教育を考える(予定)」
講師 常葉大学教育学部初等教育課程
専任講師 佐藤和紀 氏
- 詳細は各学校に文書でご案内します。

http://www4.tkc.pref.toyama.jp/eizou/



平成30年度 開催風景

利用案内 公益財団法人富山県ひとつくり財団 富山県教育活動応援者ネット～T-EACHネット～

- 学校現場での経験や特技を生かしたい退職教員等を登録してあるサイトです。教員の負担軽減や子ども達への活動支援に積極的にご活用ください。(県教委委託事業)

https://toyama-teach.jp/



T-EACHネットホームページ

入場無料 第75回 国民体育大会冬季大会スキー競技会富山県実行委員会事務局
TEL076-444-4058

第75回国民体育大会冬季大会スキー競技会
「とやま・なんとと国体2020」

期日 令和2年2月16日(日)～19日(水)

- 富山市 (ジャンプ=立山ジャンツェ、コンパインドクロスカントリー=あわすの平クロスカントリーコース)
- 南砺市 (ジャイアントスラローム=たいらスキー場、クロスカントリー=たいらクロスカントリーコース)

富山県で20年ぶり3度目の開催となる第75回国民体育大会冬季大会スキー競技会。各都道府県を代表する選手による大会を間近でご覧ください。

一般観覧者(入場無料)

https://toyama-nanto2020.jp/



各県選手団を応援しよう

入館無料 富山県埋蔵文化財センター 特別展 HYOUSHIKI 標式土器

期日 開催中～
令和2年3月8日(日)まで

- 本県のこれまでの縄文時代の土器編年研究を振り返りつつ、標式土器とはいったい何なのか、研究者の視点から縄文土器をご覧いただくものです。県内出土の縄文土器が大集合の円形土器劇場はSNS映え間違いなしです。



円形土器劇場

入学生募集 放送大学富山学習センター 令和2年度第1学期生(4月入学生)の募集

期日 3月17日(火)必着(インターネット出願可)
※放送授業開始: 4月1日(水)

- 放送大学は、BS放送やインターネットを通じて、教員の皆様、仕事に役立つ科目を1科目から学べる通信制大学です。上位免許や特別支援学校教諭免許等のほか心理学に関する科目も開講しています。



放送大学で検索

総合教育センター NOW

教育研修部

小・中学校及び県立学校初任教頭研修会

～教頭としての自覚と識見を高め 指導能力の向上を図るために～

初任教頭研修会、1日目(第1回)は、「全校で取り組む特別支援教育『インクルーシブ教育システムの実際』」について、長澤正樹 新潟大学大学院教育実践学研究科教授から、特別な支援を必要とする児童生徒の特徴(発達障害の特性等)や特別支援教育を構築するコーディネーターの役割を、発達障害の児童生徒への教育支援体制のためのガイドライン(H29改訂)を用いて、【合理的配慮】と【特別な指導】をキーワードに具体的で分かりやすく説明していただきました。受講者からは、「合理的配慮は、子供本人の努力が不要であり、障害特性に応じた指導は、本人の努力が必要」「コーディネーターの役割や、学年・教科担当者の指導上の注意、保護者との面談による指導計画、ケース会議の在り方等を組織として取り組むことが大切だと分かった」などの感想が寄せられ、特別支援教育への理解を深める研修となりました。



講義 全校で取り組む特別支援教育

続いて、『学校組織とマネジメント』について「学校の働き方改革の推進」、SWOT分析演習を取り入れた「ケースメソッドの実践」等、6つのテーマに分け、荒井英治郎 信州大学教職支援センター准教授から、2日間(第1回、第2回)にわたり、丁寧に説明していただきました。受講者からは、「様々な危機安全管理に関してアンテナを高くて、どの事案も個の問題として捉えるのではなく、学校管理の面で全体として捉えることが大切」、「(仕事を)ただ頑張るのではなく、緊急度・重要度を考えた仕事の進め方を考えることが必要。その違いにより、管理職としての危機管理上のポイントがあることも重要な点」などの感想があり、初任教頭としての基礎的・基本的素養が身に付く多くの研修となりました。



演習 学校組織とマネジメント (SWOT分析演習)

若手教員研修(初任者研修会) 特別支援学校 協力校研修

9月26日(木)ふるさと支援学校において、初任者研修会「協力校研修2(特別支援学校)」を実施しました。

隣接する独立行政法人国立病院機構富山病院に入院し、治療を受けながら学校教育を受けることができるように配慮された学校の施設・設備を、3つの班に分かれて見学しました。案内してくださった教頭先生から、児童生徒一人一人の実態に応じたきめ細やかな支援について、具体的な場面を通して教えていただきました。

授業参観では、小学部、中学部、高等部の3つの授業を参観しました。班別協議では、ふるさと支援学校の先生方に指導助言者としてご指導をいただきました。受講者からは、「不登校傾向の生徒に自己肯定感を高める工夫が随所に見受けられ参考になった」「原点を思い出させてもらった。子供たちがやってみたいと思える授業の構成・教材の工夫をしていきたいと思う」などの声が聞かれました。



施設見学



班別協議

科学情報部

「小学校プログラミング教育」全面実施に向けて

いよいよ令和2年度から、小学校におけるプログラミング教育が全面実施となります。今年度、科学情報部では、教職員研修として「プログラミング教育準備コース」を新たに開設しました。また、学校支援訪問研修として依頼のあった小学校、特別支援学校6校(11月現在)に出向き、プログラミング教育をテーマとした校内研修会を支援してきました。今回は、これらの研修会の様子を紹介します。

教職員研修「プログラミング教育準備コース」では、プログラミング教育の概要や実際の教科書での取扱いについて確認し、理科のプログラミング教材やプログラミングロボット、Scratch(スクラッチ:プログラミング言語)を使った実習を行いました。受講者の感想には、「プログラミング教育についての不安が大きかったが、今回の研修で少し見通しがもてた」「どのような活動場面で行えばよいかや、教材の使い方について学ぶことができてよかった」とありました。なお、令和2年度は、プログラミング教育「導入コース」と「授業づくりコース」の2コースへと変更し、より現場の要望にあった研修内容にしていく予定です。

学校支援訪問研修では、各学校のコンピュータを使って、Viscuit(ビスケット:プログラミング言語)や教科書のデジタルコンテンツの体験を含んだ研修を行いました。先生方には、プログラミング教育について理解を深めるとともに、プログラミングの楽しさも感じていただけたと思います。

これからも、各学校の実践がスムーズに進むよう、それぞれの学校の実態に合わせて支援していきたいと思えます。



Scratchを使ったプログラミング



ロボットを使ったプログラミング

教育相談部

問題を抱える子ども等の自立支援事業 アウトリーチ型支援を紹介します!

教育相談部では、文部科学省の「いじめ対策・不登校支援等推進事業(学校以外の場における教育機会の確保等に関する調査研究)」を受け、市町教育センター・適応指導教室と連携をとりながら、不登校児童生徒の自立を支援する事業を実施しています。その一つがアウトリーチ型支援です。これは、様々な理由から学校や適応指導教室等に通級できない児童生徒に対して、訪問指導員が家庭に向いて支援するものです。

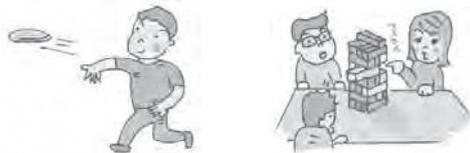
「同世代の児童生徒と関わるのが苦手」「適応指導教室に通級したいけれど、交通手段がなくて通えない」「家から出るのが難しい」「進路や学習について相談したい」などの支援を必要としている児童生徒の皆さんの家庭を訪問し、支援します。



対象	不登校児童生徒 等		
主な支援内容	児童生徒の学習支援 児童生徒の生活支援	児童生徒の進路相談 児童生徒の相談相手	児童生徒の遊び相手 保護者との面談
家庭訪問の時間等	1回の訪問時間は1時間を原則とします。 家庭訪問は、家族の在宅時に限ります。		

窓口が市町の適応指導教室の場合

適応指導教室での活動等を通して、訪問指導員との信頼関係づくりを経てから、家庭訪問を行います。



訪問指導員とのスポーツや集団での触れ合い活動

窓口が富山県総合教育センターの場合

富山県総合教育センターでの相談や、体験交流活動を通して、訪問指導員との信頼関係づくりを経てから、家庭訪問を行います。



訪問指導員との体験交流活動(大学生との交流、実験、キャンプ、ものづくり、動物との触れ合い)

訪問指導員の家庭訪問

一人一人の状況や特性に応じた相談や生活・学習支援等の充実

学校におじゃまして取材し、みなさんに各校の取組みの様子をお届けします。

学校レポート

明るい学校 楽しい学校 美しい学校 —「かたる」「まもる」「つなぐ」の活動を通して—

立山町立雄山中学校

立山町立雄山中学校は、昭和22年4月、学校組合立雄山中学校として創設され、平成29年度には創立70周年を迎えました。「かたる」「まもる」「つなぐ」活動を通して、「明るい学校 楽しい学校 美しい学校」を目指す学校の取組みや生徒たちの様子を紹介したいと思います。

8月、「立山町子ども議会」に今年初めて中学生が参加しました。「立山町を考える委員会」として「道の駅『立山パーク』のオープン」などを提案し、自分たちが守り、つないでいく町の未来について、町議会さながらの活発な議論を交わしました。また、例年、体育大会のフィナーレには、全校演技「よさこいソーラン」を踊っていますが、今年は、立山北部小学校出身の1年生が同校に出向き、5年生に踊りを伝授してきました。最初は遠慮があったものの、やがて「せーの どっこいしょ!」と威勢のよい声を出してみせるなど、先輩として熱心に指導をするとともに、成長した姿を見せていました。他にも「明るいあいさつ in 出身小学校」を行うなど、小中連携の活動にも力を入れているそうです。



10月に行われた「県中学校駅競走大会」では男子が見事優勝しました。過去10年間で県3位以内に男女通算12回も入るなど、強豪校として知られています。今年は、立山町で合宿を行った明治大学体育会競走部と合同練習も行ったそうです。1年生は10月に「立山校外学習」を行いました。室堂平や弥陀ヶ原を散策する生徒たちはその大自然に圧倒されながら、ボランティアガイドによる解説に聞き入っていました。このほかにも様々な活動を通して、深い学びを期待しているとのこと。

立山町の充実した教育環境のなかで様々な活動に挑戦し、心豊かな雄山中生のたくましく育つ姿が思い浮かぶ訪問となりました。

リレーエッセイ

「趣味と実益」

総合教育センター所長 森田 喜邦



親しい友人の影響で高校時代にアマチュア無線を始め、無線歴は40年以上になった。主に海外の無線仲間と交信しているが、英語が好きになり英語教員となったのは無線の影響が大きい。家族には英語運用能力の維持・向上のためと称して海外局との英語でのラグチュー（無線用語でおしゃべりの意味）に時間を使ってきた。交信相手は英米のような英語圏だけでなく世界中にいるので、様々な訛りの英語にも触れることができる。また、英語圏でも誰もがVOAやBBCのアナウンサーのように聞きやすい英語を喋るわけではないのは、NHKのアナウンサーの話す日本語と我々の日常会話を比べればおわかりであろう。

今でこそALTはほぼ全ての学校に配置されており、いつでも英語で会話をすることができるが、私が採用された頃は学校で英語教員がネイティブスピーカーとやり取りすることはほとんどできなかった。自宅に居ながら無線でネイティブスピーカーと自由にやりとりできるのは大きなアドバンテージであった。

教員になって10年目には英語教員海外研修で6ヶ月間アメリカで研修する機会に恵まれた。大学の授業のほかに、大学や地域の無線クラブに入って活動したり、週末には無線で交信した人に招かれて泊めてもらったりと、他の研修参加メンバーができない貴重な異文化体験ができ、帰国後の授業等で紹介できたのも無線のお陰である。

研修先の大学は2つあったが、そのうちの1つが今年のNBAドラフト1巡目でワシントン・ウィザーズに指名され活躍している八村塁選手が所属した、ワシントン州スポケーン市にあるゴンザガ大学だったので、最近ではアメリカの無線仲間と交信する際の富山関連の話題の1つとしている。これからも仕事と趣味のハーモニーを大切にしていきたい。

■執筆者プロフィール

南砺市出身 県教委指導主事、南砺福光高校教頭、砺波工業高校長を経て平成31年4月より現職（日本アマチュア無線振興協会アマチュア無線技士養成課程講師）

御意見・感想・学校が元気になるアイデア等お寄せ下さい。

教育長への直通メールアドレス：ml-powerup@pref.toyama.lg.jp